ひびき
発行
シャープ社友会
広島支部

猿岩での記念写真

『壱岐の旅』

十月一日～十月二日

十月一日（日）昨夜から雨になった。今日は社友会・紅葉会合同の、一泊旅行の日である。

行き先は、壱岐島でこの夏より企画されて、いよいよ、その日が来ました。

（今回の幹事は江川さん・浜川さん）フェリーの関係で七時の出発、参加者は既に定刻前に集合している、社友会・紅葉会を併せて二十八名で社友会十三名紅葉会は、特別参加の中尾さん夫妻を含めて十五名。

定刻少し前に会社を出発、志和ICより雨の山陽道を一路、西へと快走するが、雨足は衰えず。

佐波川SAで休憩、道路地図を見ると、福岡ICまでの半分を来た事になる、雨は止みそうにない、ここを出発して、暫く走ると、もう下関・やがて関門橋を渡る、橋の下には、貨物船や、漁船が小さく見える、橋の中間が福岡県になる、ここから約五〇分で古賀SAここで休憩をとり、昼食弁当の積み込みをする、昼食はバスの中で済ませる。

予定の時間より、相当早く着いて居た、雨は小降りになったが風があり、フェリーが心配だ福岡ICからは市内に入り九州自動車道を通り博多港に到着した。

ここまで、ガイドさんは詳しく道中の説明を、していて、べてらん『プロ』らしさを、感じたフェリーの出港までは、一時間以上の待ち時間、乗船までの間付近で、お茶を飲んだりした。

博多港をはなれ、玄海灘にフェリーの揺れは、思っていたより、小さい、社友会・紅葉会の皆さんは船室で、横になって静かな眠りにつく、目的地の、芦辺港まで二時間一〇分で丁度、一眠りに格好な時間、船酔いをする人も無く芦辺港に到着。ここから壱岐島のガイドさんによる観光案内になる。

雨の降る中を、バスは狭い道を徐行しながら、目的地へ、誰がか倉橋町を行くイメージだと言っていたが誠に同感。

『左京鼻』『はらほげ地蔵』『焼酎工場』へと行く『左京鼻』は海岸の近くにある小さい岩で雨でなければ、美しい海岸と岩に打ち砕ける波が、絵になっただろう、バスを降り傘をさして近くまで行く。

『はらほげ地蔵』は漁師の守り神として、信仰を仰がれていると、ガイドさんの説明、バスの中より手を合わす、一日目の最後の観光場所は、島の『焼酎工場』だったが、シーズンオフで設備と製造工程の説明、品種の紹介に終わり、早々に試飲会場にて試飲する、試飲後は皆さんそれぞれ好みの商品を求め、売上の協力をされた、今夜の宿泊所の『民宿』千賀荘に到着の頃は、薄暮となっていた。

部屋の割り振りは、すでに知らされていたので、それぞれの、部屋でくつろぐ、長旅の疲れを風呂で癒し、七時からの宴会になる。

山田さんの挨拶に続いて岡本さん（岡山）の乾杯の音頭にて、海の幸を満喫、やがてカラオケに移り、九時にはお開き全員で記念写真を撮る、各自は部屋に入り談笑したりして、明日の晴天を願い、眠りにつく。

朝、目覚めると、昨日の鉛色の空はどこかに、一転して雲一つない晴天に恵まれた早くから、近くの海岸を散策したり、スナップ写真を撮ったりして、バスの出発時間までの時間を有効に、今日の観光予定は『朝市』『いるかパーク』『鬼の岩屋』『掛木古墳』『うに工場見学』『砲台跡』『猿岩』『丘の辻展望台』となっている。

先ず、朝市を見てまわり、お目当ての新鮮な海産物を求め、（いるか）パークへ、ここで（ハプニング）（いるか）の餌付けは時間が早すぎて見られず（いるか）の餌券を買っても餌がなく『がっかり』して次の目的地へ。

鬼の岩屋は、山の洞穴の奥に祭壇があり昔は、鬼が住んでいたとの伝説がある、掛木古墳は、車中から説明を聞いた、まもなく、砲台跡に着く、ここは東洋一の砲台跡で、戦時中は日本陸軍の、重要基地としていた、今は砲台は撤去され、廃墟となっているが、その痕跡は当時の威容を思わせる、ここから歩いて暫く行くと猿岩にでる、猿岩とは海岸の岩が、猿の頭に見える事から、その名が付いたと言われるが、そばに行くよりも、遠くより見た方が、より『リアル』に見える、此処では現地の写真屋による記念写真を撮る。

皆さんも『猿岩』をバックに『パチリパチリ』と、記念撮影や、ビデオ撮影と、カメラマンは大活躍、丘の辻展望台は、島で一番高い山（標高二百十余米）でテレビのアンテナがありここからの、ロケーションは素晴らしい、望遠鏡が有れば、一層迫力有る、パノラマが楽しめたのではないかと。

いよいよ、最後の観光で『うに工場』へ、これが『工場』とは名ばかり、メインは海産物を販売する店であり、此処で昼食時間が来るまで、お土産の品定め、皆さん両手に名産の『うに』・『乾物』と財布は軽くなるばかり、昼食は『うにご飯』で本場の味を賞味しました。

ここで、島の誠に『ユニーク』なガイドさんとお別れをしました、このガイドさんの、説明は大変面白く、車中は、笑いの渦が巻き起こり、楽しませて呉れました。

帰りは、印通寺港から佐賀県の呼子港まで

の、フェリーで一時間余の航海、皆さんも疲れが出たらしく、ほとんどの人は眠って居られたデッキに出ると、雲一つない青空に、潮風が爽やかで、波も穏やな、快適なクルージングでした、呼子からは唐津市を通り『虹の松原』で休憩し、福岡市に入り、福岡ドームを車窓から眺めながら、元来た高速道で古賀SAに、バスの燃料の補給しばしの休憩、夜の弁当の購入をして、次の休憩は宮島SAへ、バスは一〇〇キロで快走関門橋を渡る頃は、薄暮であったが、小郡に来ると日はとっぷりと暮れ、車の赤いテールが、バスを追い越して行く、やがて宮島SAに到着、当初の予定時間より、約一時間半は早い、ここまで来ると、もうわが家の庭のようである、自宅に電話をする人、しない人もバスより降りて、深呼吸をしたりして『やれやれ』と言う感じ休憩も、そこそこに、一路八本松へ九時に無事到着

『幹事の江川さん・浜川さん、有り難うご座居ました、そして参加された、皆さんお疲れさまでした』

壱岐の秋　猿岩あれど　猿見えず

（記）松岡　良明

広島支部第三回秋期親睦会旅行

社友会広島支部も結成以来、第三回目の秋期親睦旅行を実施することができました、回を増すごとに旅行に参加する人も多くなり広島支部としての活動が充実してまいりました。　今回の旅行には、遠くは大阪より中尾氏（元広島支部会員）鳥取より片桐氏・岡山より岡本真一氏のご参加もいただき盛大に旅行を　楽しむことが出来ました。

本年度は『壱岐島内観光』とし一泊二日の計画で、社友会広島支部会員及び紅葉会（元広島事業本部勤務・定時準社員）の皆さんとの合同で楽しく、旅行をすることが出来ました、　旅行行程は、朝七時広島工場を出発・山陽自動車道志和インターより一路博多港え、博多港より約二時間で芦辺港到着、一日目はあいにくの雨で予定コースを一部変更し『壱岐焼酎工場を見学』ここで見学後全員で焼酎の味くらべ、初日より焼酎のお土産でいっぱい、第二日目は天気も回復し旅行日和、いるかパーク・東洋一の砲台跡・猿岩・ウニ工場見学・ここで、うにめしの昼食ほかショッピング、多くのおみやげを抱えて帰途印通寺港から呼子港へ、途中唐津おみやげセンターで小休止、またここでも海産物のおみやげを手にいっぱいにしてバスに乗車、云って見れば今回は買い物旅行ですかな、皆が大変楽しく旅行をいや買い物旅行を楽しまれたのではないでしょうか。　最後に今回の旅行の幹事さんに当たられた江川さん・濱川さん大変ご苦労様でした厚く御礼申し上げます。

記　T・N

？？？？？？？？？？？？？

『何んと読みますか』

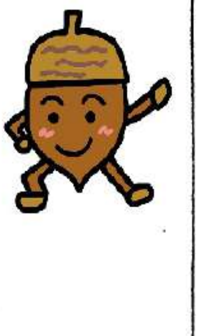
難読駅名の巻

①御所　②櫟本　③京終　④石蟹　⑤刑部　⑥万能倉　⑦小奴可　⑧特牛　⑨麻植塚　⑩伊予寒川

①いしが　②こっとい　③おえづか　④ごせ　⑤いよさんがわ　⑥なまぐら　⑦おさかべ　⑧きょうばて　⑨おぬか　⑩いちのもと

①②③・奈良県　④⑤・岡山県　⑥⑦・広島県　⑧・山口県　⑨・徳島県　⑩・愛媛県

社友会広島支部　新役員決まる



去る、七月十二日石井支部長が死去され、当支部としては大きな柱を失いました。真に残念であり、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

支部役員再編成の為、急拠、幹事会を開催し今後の対策を種々協議しましたが取り敢えず次期総会迄の間、左記のごとく決定致しました。

記

支部長	山田　順	
代表幹事	新田　保	会　計
幹　事	江川　朝昭	支部年間計画
〃	松岡　良明	支部広報
〃	濱川　康	同好会運営
〃	小島　武重	会計監査

当支部も年々会員の増加はあるものの、他支部と比較すれば甚だ弱小であります。今後は前支部長のご遺志を受けつぎ活動の充実に努め

山椒は小粒でもひりりと辛い

支部にしたいと考えております。

又、この機会に各役員の担当項目を明確にし、各人の責任のもとに支部運営を図り、年間計画の遂行はもとより益々親睦の和を広げ、いつでも、誰でも、気軽に立ち寄っていただける社友会支部にしたいと考えております。

今後共、会社事業本部、並びに社友会会員皆様の絶大なご協力をお願いいたしま

支部長をお引き受けして

社友会広島支部も平成五年七月十五日発足以来順調に進展して参りました。

しかし本年七月十二日石井支部長が亡くなられその悲しみの中で後任支部長をやれと言う事になり取り敢えずお引き受けすることにしましたが、もとより前支部長のような力量はありません。

会員皆様のご協力を得て大任を全うしたいと考えております。

先日、高齢者の生活と心身の健康
―人生の長い午後をどう生きるか―
というテーマーの講演の中で大方の老人はこんな精神的充足感を持ちたいと思っているという話がありました。

「周囲の人から認められたい」（承認）
「何かに挑んでいるという感じをもちたい」（挑戦）
「成長しているという感じをもちたい」（成長）
「周囲の人から何かを任されているという感じをもちたい」（責任）
「周囲の人のために役立っているという感じをもちたい」（奉仕　貢献）

思えば私も定年の時に
「これからは余生ではなく与生を送りたい」
と挨拶したことを覚えています。

そして地域の生涯学習、ボランティア活動等に少しばかりお手伝いしてきました。

これからも何かにお役に立ちたいという気持ちを大切にしながら更に体調を整えて支部活動の活発化に努力したいと考えております。

重ねて今後とも皆様のご協力をお願い致します。

（山田　記）

『果報は練って待て』

世間では、よく事業やその他で成功したものをさして、彼は運がよかったから、と評する人が少なくない。それも単に運がよかったためだけを強調し、それ以外には何ものでもない、という、語り口をする人が多い。一方、自分は、不運だ、運が悪いため、どうしても成功しない、といって、天をうらみ、神になげく人たちがいる。成功しなかったのは、ただただ運がないためだといわんばかりに、ぐちをこぼす、世の中にはこういう人が多いように思う。

最近読んだ本で、佐伯　勇著『運をつかむ』に少しばかり感銘を受けところがあるので、その一部を披露することにした。著者は大阪人ならば誰でもご存じの、今は故人となられたが、関西財界の重鎮ともいえる人で、かって近鉄会長、大阪商工会議所会頭など多くの要職を歴任された人であり有名である、この本は、故人が生前、各方面での経営セミナー等で講演されたものをまとめ発刊されたものである。

人間は、個人にしても、運、不運という致しがたいものに支配されている。昔から成功の三条件として、俗に、運、鈍、根、ということがいわれ、運というものが成功の第一と考えられております。

これほど運は大切なものであるがしかし、運が成功のすべてではない、一般的にみてここらへんが大きな考え違いをしている人がいるのではないか。たしかに成功者は、幸運であったのであろう。また、失敗した人たちは、不運だったのであろう。しかし成功者には、つねに幸運ばかりが訪れたわけではない。失敗者にしても、つねに不運だけがつきまとったのではない、幸運というものも訪れているものだ。運、不運はそれ自体を自ら作り出すことはできないが、それをつかむことはできる。要するにつかむか、否がにある。そこが成功するか、否かの大きな分かれ目と考えられる。

幸運をつかむためには、平素の準備努力が必要であり又ガッチリつかんで離さないという努力がなされなければならない。その努力が価値のあることであり、高く評価されるものと考える。運命というものは、この世の中に存在するものであるが、これはスーパーヒューマンともいえるもので、人間の知恵や力を超越したもの、一つの大きな力によって森羅万象が支配されているものである。運命、幸運というものは不可思議なものであるが、著者は、ホーソンの『デビット、スワン』の内容を引用し話をしている。

ある少年が一人で旅行している、あるとき公園にさしかかり、疲れをいやすためにそこでひと休みすることにした。いつのまにか荷物を枕にしてスヤスヤと寝込んでしまった。そこへ盗人が来て荷物を盗ろうとする、身体に危害を加えられ、少年は枕にしていた大事な荷物をまさに奪おうとする、その一瞬に馬車がやってきた。そこで盗賊はあわてて逃げて行った。少年はそれで助かったのであるが、しかし少年は何も知らずに依然として寝入っている。ところが馬車は目の前にやってきて、故障、修理することになった。馬車の中から老夫婦が出てきて一服するのだが、ふとみると健康そうな少年がすこやかに寝ている。これを眺めた老夫婦には子供がいなかった、そこでこういう元気な子供を自分の子供にしたらいいなあーおばあちゃんこの子をもらったらとうだろうという話になった。この老夫婦は巨万の富をもつ金持ちである。だから少年は大変幸福を得ることになるわけだ。前には自分の持物をとられ危害をくわえられんとし、生命さえ脅かされそうになったが、これが一転してこんどは逆に巨万の富が手に入りそうになる。こういうやうに不運と幸運がわずかな間にやってきていたが少年は　ったく何も知らずに寝入っているのだ。そのうち御者が馬車の故障が直りましたといい、老夫婦は、ああそうかといって馬車に走り遠くへと去って行ってしまう。これは、それだけの物語りに終わってしまうが、人生の幸、不運というものは、そうゆうものだということの物語りである。運命というものは不可思議なもので幸運も悪運もつねに自分のところを通っているのだということをこの物語りは象徴している、

要は、幸運がやってきたとき、これをどのようにしてつかむかである。どうしてつかむかが問題である。そのためにはまず第一に自分に幸運がめぐってくるものだ、ツキは必ず自分にくるものだと心の底から確信することが絶対に必要である。自分には運がないといって年中ボヤイておる人には絶対に幸運はつかめない。外国のことわざに『運はしばしば戸をたたくが愚者はこれを内にいれようとしない』ということがある。運がめぐってきたチャンスをパッとキャッチするようにせねば最初からあきらめて、運がないといってグチる人には幸運をつかむことはできない、又グチる人に不運な人が多いともいえる。

世の中は何も自分だけにつくられておるものではない。又他人だけに神々があるものでもない。運命の女神は誰にも微笑んでいる。即ち、チャンスは公平にくるものである、全知全能の神がどうして広い世界の中で自分だけを差別しない、運はみんなに公平にくるものである。

みなさんもマージャンをやって気づくことがあったと思いますが一チャンなり、二チャンなりやっているとどんなに下手でも一度はツキが回ってくる、非常にいい手がきたりすることがあり、強引に打ったパイが無事にとおることがある。こういうときにガサッとかせぎ、ツキがないときジート辛抱するというのがマージャンに勝つ秘訣だと玄人はいうがまさにそのとおりだと思う。強い人は、ツキがきたときより有効により多くこれをつかんで勝負する人だそこには技術も生きてくるし、勘の冴えも手助けする。一方下手な人はツキにのることができないし、ツキのないときも同じように打ち、技術不足もあってそれで負けることになる。つまり、運はいつか自分の番にやってくる、今日こなくても明日こなくても、あるいは来年こなくても悲観することはない、長い目でみればいつかはくる。自分が生きているうちに、自分が正直に努力していれば必ず運命の女神が訪れるものである。又運は努力に正比例するものである。更に、運命は公平であると確信することが大切である。

いつくるかわからないが自分にも運がくるだろうといって遊んでいてはいけない。『果報は寝て待て』といった式でいねむりしていては運はつかめない。幸運はいつどんなかたちでくるかわからないわけであるから常に努力勉強して準備しておくとチャンスがきたらパッとつかむことができる。常に用意せよと言いたい。運はいろいろかたちを変えてくるそれをある人はつかめても別の人はつかめないこともある。

運というものはやはり寝て待っているようではつかめない、寝て待つのではなく練って待つ『果報は練って待つ』ということである。

現代のように激烈な競争経済時代になると攻めて攻めて攻めまくれ、といった式の突撃精神のみが強調されるが余裕とかゆとりといったことがなおざりにされる、不況時代や競争時代ほど余裕をもつことが大切である。心にゆとりがないと失敗する。

余裕というものは大切なことで、順調にいくはずのものがダメにしてしまうことがある。二分の余裕を残すことに当たって臨機応変に良い手が浮かんでくるものである。次に、時として場合に応じて転進と離脱を考えよ『天に三日の清天はなく』で順調にばかり進展するというわけにはいか

いる世の中の変化に応じて身をかわす用意が必要だ。あらゆる努力をしても目的を達することができない、このような場合には一度射程圏外に去ってみることも必要だ。一歩遠いて視野を広げ見返す。囲碁で岡目八目ということがあるように、勝負の当事者よりハタで見ている者の方がよく見えるの例の如く、行き詰まりを感じたときは場合に応じて転進と離脱を考えることが必要なのだと教えている。著者はこの本で自己の豊富な経験をもとに運をつかむためにより確率の高い有効なテクニックを広く記述し紹介しているが、私がこのたび、あえてこの文の掲載を依頼したのは、とくに若い読者に、幸運を信じ、そのチャンスのくるのを練って準備することを心していただくことにあります。

（記　小島）

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

近況報告

私は退職後、早三年と十ヶ月が経過致しました、勤務時は退職後の計画また今後のありかた等考えも付かなかったことでした、たゞある労組幹部の方から退職後のありかたに付いて懇々と話をお受けしたことがあり、現在このお話しを参考に有意義に生活を送っております。

退職後一年ばかりは、体調も悪く通院致しましたが、現在は体調も良く釣り仲間と出掛けたり又オーディオ機器をいじったり退屈をせずに過ごしております、かたや戦前・戦後の流行歌とポピュラー・ジャズ等の収集も趣味の一つとしてやっており現在では四百曲を超える収集が出来ました、皆様の中で珍しいものがあればおしらせ下さい。簡単ですが近況報告とさせていただきます。

平成七年十月

新田　保

『私の近況』

報告者松岡　良明

近況の報告との事でありますが、さて何を、お知らせすべきか・迷いましたが取り敢えず、私のある日の一日を、ご披露しまして報告に変えます。

十月七日（土）薄曇り

毎朝の起床は決まって、六時です、この頃は、この時間、ようやく、空が白みかけてくるが、曇天の日は未だ暗い、洗面後『愛犬』の散歩約三十分『愛犬』の散歩は雨天でも、これは止める事はしない、そして盆・正月も休まない、朝の運動は『愛犬』だけではなく、自分自身の健康にも良い、散歩を済ませて、朝刊に目を通し、それから朝食にするが、少しの運動だが、朝食はすこぶる美味しく頂けます。

朝食後、朝刊を更に熟読して、参考記事はコピーを取っておく、九月末までバイトをしていたが、十月になってからは、自由人となったので、時間は有り余る。

今日は『酒まつり』で、十一時に会場に行く、映画『蔵』の上映は、午後二時三〇分よりで、上映まで時間は有る、広場には焼き鳥・おでん・タコ焼きの屋台が、お客の呼び込みに『声』を出している、焼き鳥の匂いに釣られ一皿買い、O・SA・KE広場にて、全国の銘酒を、焼き鳥を肴に、チビリ・チビリは最高の幸せ、やがて、映画の開演時間・この映画は北國を舞台に、代々、続いた老舗の酒蔵を物語りにした、話題作、久しく映画らしい『映画』を見せて貰った、映画も終わり家路を急ぐ。

午後五時になったので、夕方の『愛犬』の散歩、我が『愛犬』君は、一日二回の散歩をする癖が有り、これに応えてやるのが、飼い主の役目と、ここ十五年間続けている

この日も、早めに風呂を済まして、九時には、就寝につきました。

健康を維持して行くには、規則正しい生活が、最良と肝に銘じ、早寝、早起きを実践致しております。

『チョット・どらいぶ』

暑くもなし、寒くもなし、絶好の季節です『チョット・どらいぶ』とは、気を張らず思い立ったら気軽に『ハンドル』を握って出かける事です、皆さんのお近くにも必ず見所が或るはずです、意外の発見ができてとても楽しい『ひととき』を過ごせるでしょう、小さいお孫さんには、公園などが最適奥さんとは、新しく出来たショッピング店はいかがですか、自分一人で、静かにしたい人は、瀬戸の海を見に行かれたら、秋の静かな海を見ていると心にゆとりが生まれます、海の嫌いな人は近くの、山にでも。

まつおか・よしあき

社友会名簿

（社友会・広島支部在籍関連者）

	氏名	住所	社友会/NO.
1	山田　順	住所は個人情報保護のため削除しています。	191
2	野口　功		214
3	松岡　良明		235
4	藤井　次郎		277
5	小池　勝義		284
6	木船　久		388
7	嵐　定明		438
8	岡本　脩		445
9	新田　保		453
10	岡本　真一		461
11	岡原　丁三		472
12	小島　武重		493
13	片桐　縣二		501
14	濱川　康		537
15	小幡　友幸		549
16	宮下　正幸		586
17	江川　朝昭		612
18	山内　孝雄		635
19	島田　博之		666
20	曾根　五郎		739
21	岡野　喜治		749
22	河野　精摩		757
23	石井　叶		771

§　編集後記　§

今年の記録的な猛暑も、今は山の木々も赤く染まり秋本番です、TVのニュースや新聞では世の中の様々な出来事や、事件を知らせて居ますが明るいニュースは無く、本当に嫌な事が目立ちます、特に気になるのは、伊豆地方と奄美諸島の地震の報道ですが、年初めに起こった『阪神大震災』のような、被害が三度と起こらない事を願うだけです、この会報が届くころは更に気温が低くなります、どうか、皆さん健康に留意していただき、次の再会を楽しみにお待ち致します。

追記、皆さんよりのお便りも、お待ちいたします。